

「第 15 回電子ペーパーシンポジウム」開催報告

電子ペーパーコンソーシアムでは、例年シンポジウムを開催して調査研究の成果をご報告しています。通算第 15 回目となるシンポジウムを 2019 年 2 月 14 日（木）に日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホールにおいて開催しました。今回は 3 件の活動報告と 7 件の招待講演及び実機によるデモ等を行い、73 名の方にご来場いただきました。

最初に電子ペーパーコンソーシアム委員長の面谷 信氏の開会挨拶に続き、各調査研究グループからの活動報告が行われました。

RG1 からは、「電子タイルの活用シーンの探索とオフィス向け電子ペーパー機器の扱いやすさの評価」と題して、主査の柴田 博仁氏から電子ペーパーの壁面表示装置である「電子タイル」の利用シーン（地下鉄の地下通路、競技場のスコアボード、山小屋の屋根）と電子タイルを利用する理由と価値について研究報告がありました。

RG4 からは、「電子ペーパーの国際標準の内容説明」と題して委員の高橋 達見氏から電子ペーパーディスプレイの用語や光学測定方法等の国際標準として発行された各規格（IEC62679-1-1）の内容について説明が行われました。



<活動報告：RG1 柴田主査>



<活動報告：RG4 高橋委員>

委員長の面谷 信氏からは、「電子ペーパーコンソーシアムの 15 年間の活動を振り返って」と題して、2003 年に「電子ペーパー懇談会」として発足してから今日までのコンソーシアムの歩みと成果について総括的な報告が行われました。



<コンソーシアムの歩み紹介：面谷委員長>

各調査研究グループからの活動報告に続いて「電子ペーパーの応用展開」、「電子ペーパーの関連技術」の分野別招待講演、及び「スペシャルゲストトーク」が行われました。

最初に「電子ペーパーの応用展開」分野より、山本 孝氏（株式会社ジェイアール東日本企画）から、「デジタルサイネージの発展状況」と題して「トレインチャンネル」や「J・ADビジョン」などデジタルサイネージの最近の展開事例や「NewDays ビジョン」など新たなメディアの開発、媒体化に向けた検証結果を基にデジタルサイネージから見た電子ペーパーの可能性等についてお話を頂きました。

続いて、首長 正博氏（栃木市役所 保険福祉部 地域包括ケア推進課）から、「電子ペーパーによる介護認定業務のペーパーレス化」と題して、同市の介護認定審査会に電子ペーパーを導入した際のメリット（紙・印刷コストの大幅な削減、資料廃棄の手間削減等）と問題点（操作慣れに時間がかかる、機器不具合対応等）についてご紹介をいただきました。



< (株) ジェイアール東日本企画 山本 孝氏 >



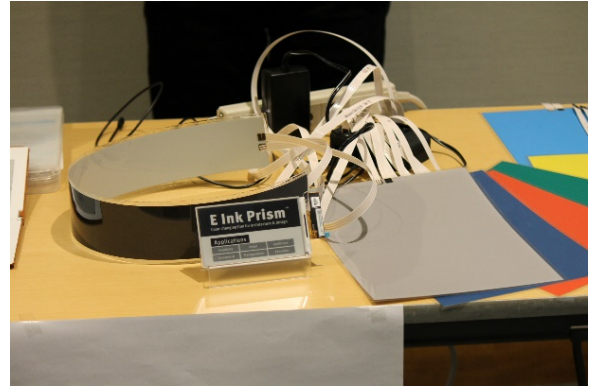
< 栃木市役所 首長 正博氏 >

続いて、梶田 将司氏（京都大学学術情報メディアセンター）から「教育の場における電子ペーパーの活用」と題して人間の思考過程把握の有用なデータである「手書きプロセスデータ」の収集実験におけるデジタルペーパーの活用についてご紹介を頂きました。



< 京都大学 梶田 将司氏 >

休憩時間には、E Ink の「E Ink PRISM」、ソニーの「デジタルペーパー」、富士通の「ペーパーレスノート電子ペーパー」、東海大学による「電子タイル」について、それぞれ実機によるデモ展示がロビーで行われ、来場者の皆様に好評を博しました。



<デモ展示の様子>

招待講演の後半は、最初に檀上 英利氏・甲斐 智洋氏（凸版印刷株式会社）の両氏から「超低消費電力を活かした電子ペーパーの応用展開」と題して、「バッテリーレスタグ」の製品概要や想定用途、IoT 無線通信機器として EnOcean 機器への電子ペーパー搭載検討などの紹介が行われました。



<凸版印刷（株）檀上 英利氏>



<凸版印刷（株）甲斐 智洋氏>

続いて、「電子ペーパー関連技術」分野より、最初に小林 潤平氏（大日本印刷株式会社）から「電子リーダーにおける日本語の速読支援」と題して、行長、スクロール、インデントなど読みの知覚メカニズムに係る様々な要素を考慮した「電子リーダーによる日本語の速読支援」について紹介が行われました。



<大日本印刷（株）小林 潤平氏>

続いて、E Ink Japan 株式会社の橋本 圭介氏から「電子ペーパー技術の最新動向と新展開：ビル外壁デザイン等」と題して「E Ink Prizm」や米国サンディエゴの空港のレンタカーセンターの外壁に 2000 枚を超える E Ink Prizm ディスプレイを設置し、外壁に動画を出現させる「Dazzle Project」の紹介が行われました。



<E Ink Japan (株) 橋本 圭介氏>



<文具ソムリエ 菅 未里氏>

招待講演の最後は、スペシャルゲストとしてお招きした文具ソムリエールの菅 未里氏から「文具の魅力と電子ペーパーへの期待」と題して、文房具の魅力と文房具の視点から見た電子ペーパーについて講演を頂きました。菅氏からは、今後の電子ペーパーへの期待として「書ける」から「書きたい」へということで筆よく（早く書きたいという欲求）を刺激する「電子ペーパー独自の書き味」が欲しいとのメッセージが送られました。

講演終了後は、面谷委員長の司会で菅氏と来場者の質疑応答、自由討論が行われました。来場者からも活発な質問が相次ぎ、会場は熱気につつまれました。

最後に、柴田副委員長の閉会挨拶をもって、シンポジウムは盛況のうちに終了いたしました。

電子ペーパーコンソーシアム事務局

～プログラム～

<p>*開会挨拶 (11:00-11:05) 面谷 信 (電子ペーパーコンソーシアム委員長/東海大学 光・画像工学科 教授)</p>
<p>【今年度の活動報告】</p>
<p>(1) RG1 活動報告：「電子タイルの活用シーンの探索とオフィス向け電子ペーパー機器の扱いやすさの評価」 (11:05-11:20) (柴田 博仁：電子ペーパーコンソーシアムRG1主査/富士ゼロックス(株))</p>
<p>(2) RG4 活動報告：「電子ペーパーの国際標準の内容説明」 (11:20-11:40) (高橋 達見：電子ペーパーコンソーシアムRG4委員)</p>
<p>昼食 休憩 (11:40-12:40)</p>
<p>【これまでのコンソーシアム活動の総括】</p>
<p>(3) 「電子ペーパーコンソーシアムの15年間の活動を振り返って」 (12:40-13:00) (面谷 信：東海大学)</p>
<p>【電子ペーパーの応用展開】</p>
<p>(4) 「デジタルサイネージの発展状況」 (13:00-13:30) (山本 孝：(株)ジェイアール東日本企画)</p>
<p>(5) 「電子ペーパーによる介護認定業務のペーパーレス化」 (13:30-14:00) (首長 正博：栃木市保健福祉部地域包括ケア推進課)</p>
<p>(6) 「教育の場における電子ペーパーの活用」 (14:00-14:30) (梶田 将司：京都大学 学術情報メディアセンター)</p>
<p>デモ展示 (SONY、E Ink、電子タイル、富士通) / 休憩 (14:30-15:00)</p>
<p>(7) 「超低消費電力を活かした電子ペーパーの応用展開」 (15:00-15:30) (檀上 英利、甲斐 智洋：凸版印刷株式会社)</p>
<p>【電子ペーパー関連技術】</p>
<p>(8) 「電子リーダーによる日本語の速読支援」 (15:30-16:00) (小林 潤平：大日本印刷株式会社)</p>
<p>(9) 「電子ペーパー技術の最新動向と新展開：ビル外壁デザイン等」 (16:00-16:30) (橋本 圭介：E Ink Japan 株式会社)</p>
<p>【スペシャルゲストトーク】</p>
<p>(10) 「文具の魅力と電子ペーパーへの期待」 (16:30-17:25) (菅 未里：文具ソムリエール)</p>
<p>*閉会挨拶 (17:25-17:30) 柴田 博仁：(電子ペーパーコンソーシアム副委員長)</p>

以 上